厨二病少女物語 in,めだかボックス

箱眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
厨二病少女物語　ｉｎ，めだかボックス

【Ｎコード】
Ｎ６０７８Ｚ

【作者名】
箱眼鏡

【あらすじ】
とある厨二病少女が神に出会い（？）
スキルを貰って原作ブレイクｏｒ傍観するお話！

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。（前書き）

連載、始めました。

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。

やぁやぁやぁ！　はじめまして！　Ｍｉｓｓ．厨二こと！

『　　』ちゃんですっ☆

…え？　名前が表示されてない？

……気にすんな。気にしたら負け！ｏｋ？

で、本題に入るが…なんか私、真っ白いところにいるんだよねぇ？

うん…何でこうなったんだろう。

とりあえず、回想！

――――――

そう、それは私がとある怪しい古本屋『ＢＯＯＫ　Ｏ〇Ｆ』で…

『キツネザルでも出来る！正しい神様の呼び方（初版）』

を買った事から始まった…買う時　可哀想な人を見る目で見られたが。

でだ、家に帰ってその本を見たんだが…

――――自宅

「よし、メガネ装備完了！　熟読するぜー！」

とか言って本を読み始めたんだよ

まぁ、当然の如く『神様の正しい呼び方』があって

試にやったんだよね、手順通りに。

「えー…っとぉ？

『付属の魔方陣の描かれている蝋燭を六角形にならべ、その中心に立ち、

「いでよ！」と言ってから「くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ」を噛まずに１０回唱える』

…くっ…！　やってやろうじゃねェか！！」

で、やったんだよね。

そしたらさ…

「いでよ！

くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ

くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ！！！！！！」

…出来たんだよ。出来ちゃったんだよ。すごくね？

んで、魔方陣が光ったと思ったらー、
ここに居たわけさ。

「お前が俺を呼んだんだろ？」

とか言ってる奴いるし～…

……ゑ？

そう思い、後ろを見たら

ものすごい美形な奴がいた。

畜生っ！

「誰だッッ！！！！」

「神だッッ！！！！！」

「知らんがな！！　って神！！！！？」

「そうだよ！！　１時間位前からいたよ！
お前がいつまでたっても現実逃避してるからかなり寂しかったよ！」

「知らん。どうでもいい」

「どうでも……」

ていうか神イケメンだなオイ…
まぁいいか。私の願いが先だっ！

「で？　神（笑）さんよぉ…ていうか何時まで落ち込んでんだよ。
鬱陶しいわ」

「誰のせいだ……で…本題に入るけど、お前の願いは転生だよな？
つーか此処に生きたまま来る奴って中々いねぇよ」

「オイ、ちょっと待てっ！！」

「ん？何だよ」

「今、お前…生きたままっったよな？
つー事はアレか、ここに来る奴は大抵死んでんのか？」

「……まぁ…な…？」

「今の間は何だぁ？　オイコラ神（笑）さんよ」

「さーて！　さっさとやるぞー！」

汗だらっだらやんけ…

「…まさかとは思うけどさ、その死んだ奴って…お前のミスで死んだりとかか？」

「！！」

おお、ビクッてしたっ

「…ふぅーん、へぇーえ？そっかぁ、そうなんだぁ？w」

「う、うるさい！　俺だって、俺だってミスくらいするっつーの！」

ツンデレ…？　では無いな。確実に。

「で、此処に来た奴は身元確認をしなきゃなんないから…」

「間違って死んだとかそういう事で？」

そう！　私は確信犯！

「グサッ…そうだよ…」

「自分で…」

「ゴホン、気を取り直して…名前は？ちなみに俺は菊だ」
「女子か。私は『　　』な」
神が分厚い本を見始めた。重くねぇの？
「……お、本人だな。ＯＫ　ＯＫ
で、お前の願いは転せ　「違ぇよ」　は？」
「私の願いは…　「ちょっと待てよ！」　ンだよ駄神」
「駄神…じゃなくて！　お前の願いは転生のはずだろ！？」
「情報古いな…　あんな？　私はある時、気づいたんだよ」
「何に」
「『あれっ？　転生しちゃったらいろんな世界行けなくね？』
…という事に。」
「はぁあああ？！」
「つー訳で、今の私の願いは

『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』をくれ。
」

「せこいーーーーー！！！！」

「うるせぇな！！私はあらゆる事を楽しみたいんだ！いいだろ！！」

「うううう…俺ってさ、お前に呼び出されただろ？」

「お？なんだいきなり」

「俺達には決まりがあって…

『呼び出された神は　呼び出した者の願いを絶対叶えなければいけない』

…って言うのがある…から」

「叶えてくれんのか？」

「…まぁ…でも、お前の願いって、全時空を行き来するって言う事なんだよ」

めんどくせぇ言い回ししやがって。めんどくせぇ奴だな。

「＝叶えられるかなぁ…　みたいな事か」

「うん…という事で、ちょっと大神様に相談してくるわ」

「…何か納得いかねーけど…いいよ」

「おう、ちょっと待っててくr…　『その必要はない』　！！」

「んぁ？」

誰だy…　美人さんキター…　何で神って美形多いの？
そんなこと思ってると、神（美人）さんが口を開いた

『――――――菊、テメェ何モタモタしてやがる。おぉ？』

「口悪っ！！」

ビックリだよ！！　何！？めっちゃ口悪い神さんキタ！！
口悪過ぎて突っ込んじゃったよ！！もう！

「す、すみません……」

「めっちゃビビってんじゃん、チキンハートだなーお前」

「う、うるせぇっ」

『オイゴラ、テメェアタシの話聞いてたか？　ん？』

「聞いてましたごめんなさい」

「弱いなお前…」

『！　お前がこの阿呆を呼び出した人間か』

「そうッス」

『ほぉーん…お前の願いはー…何だっけ？
あらゆる世界に行けるスキル…と、スキルを作るスキル…だったか？』

「え、何で知ってるんですか？！」

駄神ことお菊ちゃん（笑）が喋りだす。

『お菊ちゃん（笑）…　テメェが持ってったのはコレの一個前のだ（笑）』

「お菊ちゃん！？」

「お菊ちゃん、案外ドジっ子なんだな（笑）」

『で、お前』

「へぁはい！？」

いきなり呼ばれて変な返事しちゃったよ…

『お前の願い、叶えるからな』

一瞬の沈黙。　そして…

「「…はあっ！！？」」

叫んだ。

だってビックリしちゃったんだもんっ☆

『ん？　なんだ嫌なのか？』

「物凄く嬉し過ぎて吐きそうです」

『ははは！　そうか！』

「ちょっと！！　大神様！？　いいんですか！？」

『いいっつってんだろ？　お菊ちゃん（笑）』

「そうだよ。お菊ちゃん（笑）」

「う～…もういいや…ハハッ…」

お菊ちゃん（笑）が落ち込み始めた。邪魔くせぇな。

「つーか、マジでいいんスか？」

『いいんだよ別に。お前気に入ったし』

「よっしゃあああああああああああああああっ！！」

『落ち着け！？』

「うぁっ、スンマセン…つい」

『いや、いいんだがな…
で、『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』はもう使えるからな』

「「いつの間に！？」」

あ、お菊ちゃん復活した。はえぇな…神クオリティーかこの野郎

『企業秘密だ。　…お、もうそろそろ時間だ。』

「あ、本当ですね」

「？　時間が何だよ」

『ん？　お前を下に戻す時間』

「あ」

そーいや忘れてたな…

『会うのは最後になるかもしれないから、アタシの名前を教えておく。
アタシの名前は紀樹だ』

「紀樹さん…ｏｋッス！　覚えました」

『お菊ちゃーん？　テメェはいいのかー？』

「あんまし言う事ないですし…」

「ンだよ冷たいなー、お菊ちゃん」

「お菊ちゃんはやめてくれっ！！」

「嫌でーす（笑）」

『じゃ、戻すぞー』

「ご愁傷様…」

「は？」

何？　ご愁傷様？

『えいっ★』

パカッ

「あ　ぇ？　パカッ…てうおおおおおおおおっ！！？」

…その音がした瞬間、下にデケェ穴が開いた。

『んじゃな～～～♪』

「じゃあなー！　死ぬなよー！」

「死ぬ確率あんのこれえええええええぇぇぇぇぇ……」

そして、私の意識は無くなった。

――――――――――――

「…ん゛ー…？」

…知ってる天井だ…　当たり前か

「あんの野郎共…落としやがって…」

私は根に持つタイプなんだぞこの野郎。

ヒラ…

「あん？　ンだこれ…」

…手紙か…？　つか上から落ちて来たよな…

…上、天井…うわぁ、物凄い無理矢理…

「えぇー…と、何々…
『おはや〇ほー！』
うた〇リか。地味にネタ使ってくるんじゃねぇよ駄神共が。
『ういーっす！　生きてるかー？』
生きてるわ！！　もう突っ込むのやめとこう。先に進まねぇ
『ははは、言い忘れてた事があったから手紙で教えるぞ。
まず、スキルの事。
スキルは現実では使えないからな。
あらゆる世界に行けるスキルの名前は
《ブックワールド》っつー奴に決定したから。
ブックワールドはその世界に行く時に
「ブックワールド！」って言えば行けるから
でもう一つの方は《スキルメーカー》。まんまだな（笑）
あと、原作はぶち壊しても、傍観でも何でもいい。
そっちの世界の漫画にゃ影響しないから。
他になんかあったっけ…？　無理だ思い出せない。

まぁこれでいいか。

p．s．おまけもやったからなー

以上。　　ｆｒｏｍ，紀樹　』

……ぐっだぐだだな！！！」

ぐだぐだ…ぐだぐだ過ぎだよ！？

馬鹿じゃねぇの！？　他になんかあったけ…？　て！！

あきらめんなよ！！！もう！！

おまけってなんだ！！！？

「まぁいいや」

どこの世界に行くかはもう決まってんだよねー

やっぱ最初は

「めだかボックスだろ！！うあああ鴎くん可愛い可愛い…！！

という事で！レッツ！！ブックワールド！！」

――――そして私の原作ブレイクが始まった。

原作傍観するかもしれないけどね。

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。（後書き）

はい、無理矢理です。
詰め込みすぎました。切り方が分かりません。
アドバイスください…

頑張って連載します。それでは　ｂｙ，箱眼鏡

厨二主人公設定だッ！！

現実

名前：不明

性別：女

年齢：１３

身長：１６２．８ｃｍ

体重：ご「言わせるかっ！！」＜ｐ＜

一人称：（基本）私　（たまに）あたし、俺、僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：普通な黒髪黒目

ｉｎ，めだかボックス（容姿はスキルで変えている）

――原作開始時――

名前：河那（カワナ）　九十九（ツクモ）

性別：女

年齢：黒神めだかと同い年

身長：１６５．５ｃｍ

体重：不明

一人称：（基本）私　（たまに）あたし、俺、僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：肩くらいのショートカットで天パ
　カチューシャ，黒をいつもつけている

おまけ：あらゆる事にたいしての才能

神さん設定…

名前：菊（お菊ちゃん）

性別：男

年齢：不明

身長：１６９．５ｃｍ

体重：不明

一人称：俺

誕生日：４／４

性格：「さあ？　しらｎ「チキンだ」違う！！」

容姿：美形，九十九さん曰く、可愛くもあり格好良くもある

名前：紀樹（キジュ）

性別：女

年齢：不明

身長：１７５．８ｃｍ

体重：不明

一人称：アタシ

誕生日：１２／２５

性格：適当

容姿：九十九さん曰く綺麗

以上！

厨二主人公設定だッ！！（後書き）

設定です。

容姿はご想像におまかせっ！！

…しまーす。

第一厨　あれっ？　何コレどうなってんの？（前書き）

即興で

「駄文です！　ふはw」

では

「どーぞーw」

さっきから台詞ばっか盗んないでくれる？

後、被せるのやm「どーぞー！！」

第一厨　あれっ？　何コレどうなってんの？

やぁお久しぶり！

今ね、凄いテンパってんだっ！

さっき私、『ぶっくわーるど！』　って来たじゃない？

それで何故か

俗に母親と呼ぶべき人のお腹から出て（生まれ？）きちゃった☆

ビックリだよね！　で私が更にテンパる事があるんだ！

何かね、私

赤ちゃんになっちゃった☆

こんな事になるとか聞いてないよ！？　お菊ちゃん！
ていうかもう誰でもいいからこうなっちゃった理由を教えて！！！
もうホント誰でもいいから教えてーーーーーー！！！

――――――

おはや〇ほー！　３歳になった九十九ちゃんだよぉー☆
…ヱ？　時間飛んだ？　当たり前だろ！？
あんなの見て何が楽しい！？
失礼、ちょっと感情が高ぶった。
で、ふと思ったんだけど

『こういう事のなくなるスキル作ったらよくね？』

って、思ったんだ。　ホントだよ？

…まぁ、スキルメーカーの存在を忘れてたけど。

あ、一応言っておくけど、スキルもう作ったよ？　いやまじで。

なぁーんて事を考えてたら、おかーさんが

「九十九ちゃ～ん！　入園式にいくわよ～」

幼稚園、行けってさ！　個人的に幼稚園は黒歴史量産所だと思う！！

「つ・く・も・ちゃ～ん！　早くおいで～」

畜生！　行かないわけにもいかないから行くよもう！

行けばいいんでしょ！　行けばあああ！（ヤケクソ）

「九十九ちゃ～ん！」

「はあーーーい！」

畜生…行きたくねぇなー…
とか考えながら靴を履いてたら

「あら～、九十九ちゃん、もう一人でくっく履けるのねぇ～」

履けるわ！！　普通履けるだろ！？

「じゃあ、行きましょうか～」

「うん」

心の中でツッコミながら歩いていた
まじ天然乙…

「ついたわよ～」

「はやぁ！！？」

もう着いたの！？　早くね！？

って、ヤベッ…

「どうしたの～？　九十九ちゃん」

「う、ううん！　ナンデモナイヨ！！？」

馬鹿！！　何故そこで焦る！！

「あら～そうなの～」

ナイス！！　天然ナイス！！　初めてこの人に感謝した！！

『入園式が始まります、親御さんは――――――』

「！　始まるみたいね～　行きましょうか～」

――――――

『これにて、○○幼稚園第３５回入園式を終わります――――』

「やっと…　終わった…」

次はぁーっとぉー…？

「クラス見に行くわよ～♪」

クラスかッッ！！！　めんどくさッ！！

…まぁ、行くか…

――――ひよこ組

ひよこて！！
0歳位はあれか！　たまごか！？

「どんな子が居るのかしらね～？」

「優しい子だといいなぁ…」

私、人見知り激しいのよ…　まじで…

「失礼します～」

相変わらずのおっとりした口調でそう言い、
私とおかーさんが教室に入ったら

「あら？　川那さん！」

美人な親御さんがおかーさんに話しかけてきた

……誰っすか？

「あら～！　不知火（シラヌイ）さ～ん！」

……え？

しらぬいですと！？

第一厨　あれっ？　何コレどうなってんの？（後書き）

短かったですねー
不知火さん気になりますね

「気になるどころじゃねぇだろ！？」

あ、九十九さん
…まだ居たんですか？

「お前が一話投稿するごとにでてきてやる！！」

どうでもいいですが、最終的にこのコーナー（あとがき）任せますよ？

「まじかよ！！？」

まじです。
では次回よこk

「次回予告！

不知火との出会い！　そして人外と殺人衝動との邂逅！

次回！

「不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかっ！！」

乞うご期待！！」

…予告通りに出来るかなぁ…

「まぁ…　ガンバ」

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

れんぞくとうこうでふ＾ｐ＾

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

や、やぁ！　唯今二度目のテンパり中！　九十九ちゃんだよっ？

うん？　え？　しらぬい？　不知火ってきゅぽきゅぽ（？）してる

…あの、不知火？

落ち着こう、自分、一回落ち着けー？

……　無　理　だ　！　！

いやだって、え？　不知火って母親いたの？

…いや、普通居るわ。お、おぉ、大丈夫かな？　私？

お、お母さん！！　と思ったら不知火母（仮）と

「九十九ちゃん大きくなったわね～」
「そうですか～？」
等と駄弁っていた。
若干呆然と立ちすくんでいたら
「あひゃひゃ！」
と、聞こえた。
…　Ａ　ｈｙａ　ｈｙａ　？
「何ぼっと突っ立てんの？　あひゃひゃ！」
「ぅおぅっ！？」
…ビックリしたー…
「？　何？　どしたの？」
「うぇっ？　あ、いや、ちょっとビックリしちゃって」
「あひゃひゃ！　なるほどね！　あたしは不知火半袖だよ！」
「あ、私は川那九十九…　よ、よろしく？」

「ぎもんぶんなんだ？」

「う゛ッ…　人見知りだしー…ねぇ？」

「！　あら～、半袖ちゃん～久しぶりね～」

おかーさんが不知火（娘）に話しかけた

え？　知り合いですか？

「あひゃひゃ！　そうですね」

ガラッ

扉を開けて先生（？）が入ってきた。

長い奴が始まりそうだぁ…

「え～、入園おめでとうございます――――――――――――――
―」

―――――――

「ではこれで終わります、明日からよろしくお願いしますね」

「「「「はーい」」」」

「はーい…」

ヤベェ…　物凄く来たくない…！！

「あひゃひゃ、明日からよろしくね☆」

「あ…うん…」

その会話を最後に、その日は別れた。

――――――帰り道――――――

「あっ」

おかーさんが何かを思い出したように小さく呟いた。

「お醤油買わなきゃ～…」

醤油かよ…

「九十九ちゃん、ちょっとスーパー寄ってもいいかしら～？」

「うん、いいよー」

「ありがとう～、九十九ちゃんはいい子ね～」

そしてスーパーへ…　と思ったんだけどさぁ…

公園が見えちゃったんだよね…

休みたい私はおかーさんに

「おかーさん、あそこの公園で休んでてもいい？」

って言っちゃった☆

まぁ、普通は駄目とか言われるけどウチは…

「あら～、いいけど～…知らない人についていったら駄目よ～？」

親が天然だから。

「分かってるよ、じゃあ待ってるから」

「はいはい～」

で、公園。

「きゃははは～」

「待て～！」

微笑ましいなぁ…

ってブランコに乗りながら子供達を微笑ましい表情で見ていたら

「おや？　一人でどうしたんだい？」

しらないおねいさんに話しかけられました。

ってか、安心院さん！！？

何故ここに…　スーパーの袋を持って…？

「どうかした？」

「あ、いえ…」

何故に？　何故にここに居るの？

「…」

「ぅ…あ、えぇっと…」

沈黙されたッ…！！

キ、キツイ…！

「…ねぇ」

「へはぃっ！？」

うわあああああああああ！！！
死にたいいいいいいい！！！！！！
何だよ『へはぃっ！？』てええええ！！

私は『どこの子？』みたいな事を聞かれるんだろうなー
とか思っていたが、
安心m…あんしんいんさんの口から出た言葉は予想外なものだった。

「君、何者？」

「…は…？」

「君が生れた事は知ってたけど、
ここまでの異常(アブノーマル)だなんて聞いて無いよ？」

何を言っているんだろうか、この人は。
確かに私はスキル持ちだが…

『ここまでの異常(アブノーマル)だなんて聞いて無い』？

誰が、私の事を、この人(じんがい)に教えた？
誰が　教えた？

…面倒臭い事になってきた…

私はそう考えながら喋り始めた…
私が作ったスキル、詐欺師(ポーカーフェイス)の仮面を発動させながら。

「…おねいさん、何を言っているんですか？

あぶのーまるって何ですか？」

…この人（じんがい）に効くといいが…

「……僕は――――「九十九ちゃ～ん！」　チッ…」

オイオイ、舌打ちしたよこの人…

「あら～、貴女は～？」

「この子、一人じゃ危ないと思ったんです。
だから少しだけ貴女が来るまで一緒に居たんですよ」

「あら～ありがとうね～？」

「いえいえ、では僕は失礼します…
バイバイ、九十九ちゃん」

「…はい」

あんしんいんさんは帰って行った。

「じゃあ帰りましょうか～」

「あ、うん…」

私は直感した。

『あの人（じんがい）は、近いうち…また現れる』

…と。

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

疲れたです。

「結局、Ｍｒ．殺人衝動は出てこなかったな」

だって宗像君入れると物凄い長くなると思って…

「…まぁ、確かに」

不知火の口調が分からない…

「そこらへんが今後の課題だよな」

うん…　次回予告の気力がないから後、宜しく…

「ぉうよッ！

次回予告！

（やっと）殺人衝動との邂逅！

そして私は自分の異常さを（若干）自覚！

次回！

「殺人衝動と厨二幼女の邂逅！」

乞うご期待！　つか誰が幼女だ！！」

第三厨　殺人衝動と厨二幼女の邂逅！（前書き）

僕、もう疲れちゃったよ…

「どしたよ」

お…

「お？」

おもいつかない！！

「えーーー、どうすんだよー」

ふは…　どうしよう

「ま、頑張れー」

僕、頑張るよ…　パトラッシュ。

「私は犬か！？」

…そういえば九十九さんが3歳の時ってー…

宗像君、5歳？

「…？　さぁ？」

…誰か教えてくださいっ

第三厨　殺人衝動と厨二幼女の邂逅！

ういす、唯今絶賛暇暇な九十九ちゃんだよー☆

今日は幼稚園（笑）は休みなのさっ！　だから

だりぃです。暇です。

状態になっちゃった☆という事で唯今公園に来ているんでございますよ

公園に来たのはいいんですけどねー

なんか物凄く異常な雰囲気の子がブランコの所にいるんでせうが

どうしたらいいの？

九十九ちゃんチキンだからわからない。

まぁ、とりあえず話しかけてみＹＯ！

「あの…」

「！　…」

ち、沈…黙…！

中々手強い奴だ…！

「あー…　な、何してるの？」

「……」

うわあああああああああ

何にも喋ってくんない！　どうしよう！

「…あの子達を見てるんだ」

「はへ？」

喋った…　失礼か。

「……」

「あ、そ、そうなんだ…」

あああああ！！　自分馬鹿あああああっ！！

折角話してくれたのにっ！！　もう！！

「「……」」

…沈黙…辛過ぎて死にそうでふ…

くっ！　こうなったら私の雑魚い会話能力で意地でも会話してやんぜっ！

と、とりあえず名前を…！

「え…と、あなたの名前は？」

「……かた…」

「え？」

「宗像…形……」

「……」

宗像？　宗像って言いました？

まさかの原作組…　宗像形ですか！！？

「…君は？」

「うえっ？　わ、私は、川那九十九…です？」

「ふうん…」

何だよ！　自分から聞いたくせにっ！

だがそこもイイ！　宗像君は私のランキング2位なんだっ！

「宗像君は何でここにいるの？」

「お母さんのともだちに会いにきたんだ」

「へぇ…　いつまでここにいるの？」

ちょっと好奇心で聞いてみた

「…いっしゅうかん」
「いっしゅうかん…　て事は明日もいる？」
「まぁ…」
「じゃ、明日から遊ぼう！」
今自分でも思った事があるよ。
『唐突だな…　自分』
って…　ｏｋしてくれるわけないよねー
「…いいけど」
ほら、だｍ…
「いいの！？」
いいのかよ！？　突然話しかけてきた奴だぞ！？
まぁでもいいんだ！　よっしゃっ！！
「きみから聞いてきたじゃないか…」
「あ、それもそうだ。
ていうか本当にあそんでくれるの！？」

「う、うん…」

あ、ヤベッ

宗像君引いてるわ。ドン引きかな？

「ごめん、ごめん…　ちょっと何か憑いちゃったみたい」

「憑く…？」

文字ネタがわかるとは！

宗像形、侮り難し！

「ナンデモナイヨー。えへへー」

「…そう…　ならいいけど…」

「じゃあ、そろそろ帰らなきゃ！

またあした、ねー！」

「…うん、またあした」

と言い、その日は別れた。

…『またあした』って言ったとき、なあーんか笑ってたような…？

…まあいいか。

――――宗像視点――――

へんな子だったな…

かわなつくも…だっけ

……ひょうじょうがコロコロ変わるし

見てておもしろかったな…　あれは…

…でも、あの子…

なんか、僕と似ているような気がする

…そんなわけないか…

第三厨　殺人衝動と厨二幼女の邂逅！（後書き）

…ふひはは

「私が自分の異常さを（若干）自覚するの、今回じゃなかったな」

いわないでくださいよ！　もう！

「あはは、ごめんごめん。

悪気はあったんだ☆　物凄く」

鬼畜！　ドS！　鬼！

「ｈａｈａｈａ！　褒め言葉だよ！」

畜生め…

「ていうか三点リーダ使いすぎじゃね？

あと短い」

そう言う事言わないの！！

頑張ったんですよ私も！

「…嘘くさっ」

九十九さん酷い

次回こそは頑張るですよ…

では次k…

「次回予告！

宗像君と私が遊んだりして仲良くなって

宗像君が自分の異常さを語りだす！

そして私は（やっと）異常さを（若干）自覚！

次回！

「普通？　異常？　そんなのどうでもいい！！」

乞うご期待！」

…次こそは、予告通りに…っ！

第四厨　普通？　異常？　そんなのどうでもいい！！（前書き）

ふははひ

「またか」

あら九十九さん

「口調おかしくね？」

だって、物凄く驚く事があったんですよ？
おかしくなるのなんて…当たり前じゃないですかっ

「何があった？」

アクセス数がねー

「アクセス数が？」

…１２００ｈｉｔだったんですよ

「まじかよ！！？　すごいな！」

本当ですよね。私なんてこの連載始めた時
『そんな見ないよなー、あはは』
とか思ってたのに。

「えー…」

気を取り直して、１２００ｈｉｔ有難う御座います

「ますっ！」

これからも頑張るですよー

ではどうぞー

第四厨　普通？　異常？　そんなのどうでもいい！！

やぁやぁっ！　幼稚園が終わった九十九ちゃんだよっ！

不知火とか不知火とか不知火とかがすごい可愛かった九十九ちゃんだよっ！

…ゴホン、失礼！

今から宗像君と遊ぶからテンソン上がっちゃってっ、てへぺろ☆

ちなみに私は今公園に向かっているよ！

いやー宗像君と遊べるとはねーもう死んでもいいよ…

…いや駄目だろ。駄目だもう、宗像君と遊べるのが嬉し過ぎて色々おかしいよ私

お、公園に着いたようだよ

誰に向かって話してんだろうね？　…まさか宇宙人！？

いやそんな事は無い…といいなぁっ

てか宗像君どk…

「…何してるの？」

「うにゃあああああああああっっ！？」

う　し　ろ　だ　と　！　？

ビックリしてへんな猫みたいな感じなっちゃったよっ！

「…ねこ？」

「む、むなかたくん…　ビックリしちゃったよ、もう…」

いやもうホントビックリしたわ

「…ごめん」

「今の間は何でせうか？！　そしてなぜ若干笑いをこらえて！？」

「…遊ぶんじゃないの？」

「あ、そうそう！　遊ぶんだった！」

…ん？　なんか話そらされた？

…よくわからん！　まぁいいか！

「よし！　何して遊ぶ！？」

「決めてなかったんだ…」

そこはご愛嬌で。

この日はブランコ乗ったり、ぼーっとしたり、そこらの子供と遊んだり

それでもう夕方なんだよねー…

「時間経つのってはやいねー」

「おばあちゃんみたいなこと言うのやめてくれるかな？」

「えへへ、つい」

「…そろそろ帰らなくていいの？」

「うわぉっ！　忘れてたっ！
じゃー形君、またあしたっ！　ばぁいっ！」

あ、遊んでる時にね、名前でいいって言われたのよねー
可愛かったよ、照れてたからっ

「…うん、またあした九十九ちゃん」

か　わ　い　い　！　！
そして名前ッ！！　うれしす！　ふはっ！

そんで次の日も
形君が背後から来たり
その次の日も
真横に形君が居たり
…色々と楽しかったですぜっ！　ビックリしたけどね！

で、もう遊べるのが最後の日…

…時間経つのってホントはやいよね

ちなみに今はシャボン玉やって遊んでるっ！
楽しいね！　シャボン玉！　パンってねっ！

「おぉぉっ…！　わ、わりたい…！」

「わってもいいと思うよ…？」

「な、なんですとぅっ！？　わ、わってもよろしいので！？」

「い、いいけど」

「やったーー」

ん？　形君？　何故にその様な微笑ましい表情なんだい？

とか思ってるけど、形君が吹いてくれるシャボン玉わってる私！
矛盾？　矛　盾？

私がシャボン玉わってると、形君が

「…ねぇ、九十九ちゃん」

「ほい？」

「…ちょっと話してもいいかな？」

と、言った。

私は若干不思議に思ったが

「…いいよー」

と気の抜ける返事をした、テヘ☆

形君が口を小さく開いた、そしてこう言った

「…僕は、人を見ると『殺したく』なるんだ。殺したく無いのに。」

「――――――…」

私は少し驚いた

自分の異常（けいくん　アブノーマル）の事を話したんだから

「…殺したくなるの？」

「うん、とっても」

「…ふぅん…　そうなんだ」

私は、形君の次の言葉に一番驚いた

「…九十九ちゃん、きみも、僕と同じなんじゃないのかい？」

形君が、そう言ったから。

でも何故か私は冷静だった

「…なんで、そう思ったの？」

私はそう形君に聞いた

「…なんとなく、そう思ったから。」

「…そっか」

「…九十九ちゃん、僕の事、怖がらないの？」

「え？　なんで？」

って言ったら、形君は鳩が豆鉄砲を喰らった様な顔をした

何故に怖がるの？

「え、殺したくなるんだよ？　ふつうは…」

「…私は普通だけど、形君のそれは才能みたいな物だよ？　多分」

「さいのう…？」

「さいのう？　ん？　才能…だと思うよ？？　私は」

って言ったら、形君は少し安心したような顔をしたあああもう可愛いなこの野郎ッ！

「…そっか」

「？　うん」

「あ…　もうこんな時間」

「あぁっ！　ホントだ！」

「…じゃ、今日でお別れだね」

「うん、でも、またどこかで会うかもねっ！」

「そう…かも、ね」

「じゃ！　またね！」

「！　…うん、またね」

私たちは別れを言い、互いに帰って行った。

私は帰り道で色々考えていた、異常な事とかね！

「…んーんー、私、やっぱ異常なんだかねー…？

…まぁ、少しは、異常かもね」

「…あー、今日のご飯は何だろなぁ～」

最終的に晩ご飯の事にいったが。

第四厨　普通？　異常？　そんなのどうでもいい！！（後書き）

無理矢理詰めちゃった…

「だな」

まぁ…　九十九さんも若干自覚したようだし…

いいか。

「いいのかよ！？」

いいんですよ別に。

さて、他に書くこともないし。

九十九さん、よろしくお願いします。

「あいーっ！　次回予告！

遂に私は黒歴史量産所（ようちえん）を卒業！

他はよく分からない！

次回！

「黒歴史量産所なんぞ滅べ！！」

一応、ご期待！」

ふはは…　辛いよ

第五厨　黒歴史量産所なんぞ滅べ！！（前書き）

どうも、思いつきますた（？）
短くなりそうでふ！

ではどぞー

「の、前に」

何ですか…

「嫌そうな顔すな。

お前さ、私の幼稚園時代書いてる時

自分の時おもいだｓ」

はじまりです！！！！！！

第五厨　黒歴史量産所なんぞ滅べ！！

どうも、Ｍｒ．殺人衝動こと宗像形に出会ってから三年が経ちました！

…ハヤイ？　そんなこと言わないで！

この三年間は不知火とか不知火とか不知火とかと遊んでばっかだったの！

しかも不知火（怒らせて）喰われかけたし！　怖っ！　トラウマものだよ！！

しらｎ…　半袖と仲良くなったけどね

名前呼んでいいって！　ひゃほう！　テラうれしす！

そして皆さん（？）に重大なお知らせ！！

今日！　私は！！

黒歴史量産所、もとい幼稚園を卒園します！！

ｙｅｓッッ！！　やっと！　ＳＯ☆ＴＵ☆Ｅ☆Ｎ☆だぜ！！

ぴゃあああああああああああああああ＾ｐ＾

…ハッ！　失礼、我を忘れていた

で、今卒園式が終わったよ

もう？　とか言わないでくれよ？

心の中で独り言を思っていたら

「あひゃひゃ！　なにしてんの？」

「あぃっ！？　…なんだ半袖か…　ビックリさせないでよっ！」

そう言うと、半袖はきゅぽきゅぽしながら

「あひゃひゃ！　ごめんね九十九♪」

と、言った

…名前…ッ！　嬉しいよ…！

…そういや形君の時もこんな事あったな

ハッ！　これがデジャヴという奴か！

成程！

「九十九？」

「あ、ごめん。何？」

「あたしはもう帰るけど、また遊びに来なよ♪」

「うん、ありがとね」

「んじゃバイバイ☆」

「ばぁーい」

そして別れた。

…あっさりしたお別れですた（´・ω・）

「九十九ちゃ～ん！　帰りましょうか～」

「はーいっ」

…さてと、私も帰るかねー

形君どっかにいないかなー…

第五厨　黒歴史量産所なんぞ滅べ！！（後書き）

はい、短いですねー

「だねぇ」

次回から九十九さんの小学校時代の始まりですよ

「お、まじか」

原作組の住んでいる所とか、
卒業した小学校が分かんないので
適当につくります。

「それでいいのか？」

いいんですよ。
世の中適当にやっていれば何とかなりますから。

「駄目人間！！」

人間は遅かれ早かれ駄目に成る様に出来てるんです。
では九十九さん、次回予告を！

「へいへい、次回予告！

私が小学校に入学！

其処でまたしても原作組に出会う！

そして（忘れられていた）人外が現れる！

次回！

「私と入学と原作組と！＋α」

乞うご期待！」

頑張るですよー

第六厨　私と入学と原作組と！＋α（前書き）

浮！　巡！　サティスファクション！！！

「何だぁ！？」

いやですね、秋〇音さんの浮巡サティスファクションを聞いてるんですよ。

いいですね。秋〇音さん。

「あ、そう…」

さて、テンションも上がった事ですし

本編どうぞー

「どうぞー！」

第六厨　私と入学と原作組と！＋α

ＨＥＹ！　九十九だぜ！

今日は何か入学式らしいんだぜ！　嫌だな！　ショウガッコウ！

ＨＡＨＡＨＡＨＡ！　もう嫌ああああああああああああっ！！

…ふぅ、ちょっとスッキリ

で、もうホント長いんで飛ばす！！

キーングクリムゾーンッッ！！

って、使えるっけ？　まぁいいか。

さて、入学式も終わった

後は…　クラスかぁ…
メンドクサイ…

「九十九ちゃん、行きましょうね～」

おかーさん、久々の登場ですね…

「あー、うん」

ダリィ…ッッ！！

――――――教室だＺＥ☆――――――

おー…　懐かしや教室…
ここに来る前はちょうど中学入学したばっかだったからなー

「しつれーしまーす…」

おお、人だらけ子供だらけ…

…当たり前だよ、最近大丈夫か、私！

教室の扉の前で突っ立てると

茶髪のちびっ子…　まぁ私もだけどね？　…とぶつかった。

「わっ！」

「わぉ」

「いてて…　ごめんね？」

「あ、別に怪我してないし…　君こそ大丈夫？」

「あ、うん」

…んー？

この男の子どっかで見たような…？

「む、善吉、何をしている？」

「あ、めだかちゃん！」

…ぜんきち…？　めだか…？

「この子にぶつかっちゃって」

「そうか、おい貴様」

「え？　あ、何？」

「善吉がすまなかったな。私の名前は黒神めだかだ
めだかちゃんと呼ぶがよい！」

「え、あー…うん」

えー…？　この子完全にめだかちゃんじゃーん…

まじかよ！！

…ん？　じゃあこっちの子は…まさか

「ぼくは人吉善吉だよ！　きみは？」

善吉キタ――――――――――――――――！！
ちっちぇ――――――――――――――――！！

「？　ねぇ」

「あ、うん？」

「きみのなまえは？」

「あー、私は川那九十九だよ。
よろしくね、善吉君にめだかちゃん」

「よろしくね！　つくもちゃん！」

「よろしくな、九十九」

「うん」

で、色々あってその日は別れた。

――――――帰り道ッ！――――――

私はめだかちゃん＆ａｍｐ；善吉君の事を
おかーさんに話していた。

「今日ね、めだかちゃんと善吉君っていう子と
友達になったんだよ」

「もうお友達が出来たの～？　すごいわね～」
たまあーにイラッと来るんだよね…
この喋り方…

とか色々話していると

「今日は九十九ちゃんが入学したお祝いに
ケーキ買いに行きましょうか～」
と、おかーさんが言った。

たかが入学で！！？

と思ったが言わなかった。
だってケーキ食べたかったんだもんッ☆

そしてシャト◯ーゼ。
…妙に細かいよね、とか言っちゃ駄目だよ？

「九十九ちゃんは何がいいのかしら～？」

「チョコレートケーキッ！」

「あら～そう～　じゃあチョコレートケーキにしましょうね～」

おかーさんがお会計しにいった。

私はチョコレート見てたけどね？

…私がテンション上げながらチョコを見ていたら

「やあ、久しぶりだね」

と、肩を叩かれた。

後ろに振り向くと

あんしんいんさんが居た。

…ケーキの箱を持って。

第六厨　私と入学と原作組と！＋α（後書き）

はい、切っちゃいました☆

「まさかあんしんいんさんが

シャト〇ーゼに居るとはね…」

多分安心院さんもケーキ食べたかったんでしょう。

そう言う事言わないであげてください。

「まあー…」

では次回予告ーっ！

「あいよーっ、次回予告ー

まさかのシャト〇ーゼにあんしんいんさんが！

そのあんしんいんさんの登場で私のテンションは急降下！

次回！

「私とあんしんいんさんとぶっ壊しッッ！！」

乞うご期待ー」

何時になくやる気の無い九十九さんでしたー

…次回、２７日位になりそうです。申し訳ないです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6078z/

厨二病少女物語 in,めだかボックス

2011年12月24日11時50分発行